

問1 ご自身について、ご回答下さい

	1消費者	2農林水産業	3食品等事業者 製造・加工	卸売業	小売業	業界団体	その他	チェック無	4マスコミ関係者	5地方公共 団体職員	6その他
問1	8	2	1	0	0	4	0	6	1	2	1

問2 本日の意見交換会について、何からお知りになりましたか。(複数回答)

	1農林水産省のHP、 配布物	2メールマガジン	3農政局のHP、配布物	4農政事務所のHP、 配布物	5その他の行政機関のHP、 配布	6新聞、雑誌等	7その他
問2	21	0	0	1	1	0	3

問3 担当者の説明についてお尋ねします。説明内容について、理解することができましたか。

	1理解できた	2だいたい理解できた	3あまり理解できなかった	4理解できなかった
問3	8	15	2	0

問3-1 説明がわかりやすかったのはなぜですか。(複数回答)

	1説明資料が平易でわかりやすかった	2説明が明瞭で、的確だった	3適切な説明時間が確保されていた	4その他
問3-1	9	10	5	1
自由記入				
資料が丁寧に作成されていた。				

問3-2 説明がわかりにくかった点はどこですか。(複数回答)

	1資料内容が専門的すぎて難しかった	2説明が難解だった	3説明が聞き取りにくかった	4説明時間が短すぎる	5その他
問3-2	1	4	2	2	7
自由記入					
補足が必要な情報が一部あったこと。					
何故今Codexの話題になっているのか、背景説明が十分でなかった様な気がする。					
背景の説明が短かった。					
最初の大項目の説明がもう少し欲しい。					
具体的な内容はあるが、日本国内との関連が不足していた。					
使用する単語が難しい。平常使う言葉でも説明できないのか。					
説明者の説明のテンポが速くて、聴き手が考えている時間が無い。					
もう少しゆっくり説明して、説明には横文字を少なくして欲しい。					

問3－3どのようにすれば、さらに分かりやすくなると思いますか。アイデアがありましたらご記入下さい。

自由記入
専門用語の定義集をつけてもらいたい。 「汚染物」「Codex」などの定義を前提に、簡単に説明した方がよい。 本人の出席者レベルを考えると、言葉の定義などをしっかり説明した方がよいのではないか。 Codex連絡会の時も農林水産省の山田総合調整官が原文を交えて発言されたが、大変わかりやすかったので、原文も加えたいかでしょうか。 説明が難解と言うことでなく、「通常の～よりも、やや高いレベル」と曖昧な基準なのに、μgなどミクロな数字を上げていることが納得できなかった。 Codexに関する基本情報がほしい。 もっと分かりやすい、子供でも理解できる単語を使うこと。 「どの機関がやるか」は消費者にとってあまり問題ではなく、「どのようにやるのか」、「どんなやり方をするのか」などが知りたいことです。 この問題（テーマ）のどこがポイントなのか。それに対してどのように考えているのかを、もっと丁寧に説明して欲しかった。 意見にもあったが、言葉の定義を先に説明し、途中に出てきた場合も説明されれば理解しやすいのではないか。

問4質疑応答についてお尋ねします。質問者の質問と担当者の回答は理解できましたか。

	1理解できた	2だいたい理解できた	3あまり理解できなかった	4理解できなかった
問4	5	17	2	0
自由記入	理解できたが、適切ではなかった回答があった。			

問4－1質疑応答がわかりやすかったのはなぜですか。（複数回答）

	1事前の説明を含めて、内容が十分理解できていた	2質問を分かりやすくまとめた回答していたので、十分理解できた	3質疑の時間が十分だった	4その他
問4－1	3	11	4	1
自由記入	農林水産省の山田総合調整官の補足がよかった。 もっと日本的な食の安全チェックについて知りたい。			

問4－2どのようにすれば、さらに分かりやすくなると思いますか。アイデアがありましたらご記入下さい。

自由記入
事前に資料を公開して質問も取っておくより良いと思います。 業者的な説明でなく、一般の人に必要な食の安全チェックのやり方を説明してほしい。 初めて聞く物質名がポンポン出てくるので面食らう。 具体的事例を多くすればよいのではないか。

問5 このような食品の安全性に係わる国際的な動きや規格等について行政が情報提供することについて、どのようにお考えですか。

	1基本的な情報として必要	2行政のリスク管理施策をより理解するために必要	3他から同様の情報が得られるので特に必要ない	4その他
問5	16	12	1	2
自由記入				
お客様視点で考えて下さい。 日本としての施策が、今後どの程度国際的な動きに追従していくのか明示して欲しい。 日本ではどんな状態でやっているかを知らせる。 基本的な部分とは何か、ということも含めて情報提供が必要だと思う。				

問6 会の運営等、何かお気づきの点や感じたことがありましたら、ご記入下さい。

自由記入	
	消費者と生産者の意見も必要ではないでしょうか。 時間がもっとあった方が良いと思います。 会場が狭い。 短い時間だったが、進め方が良く、無駄がなかった。 Codex、WHO、それぞれがリスク管理をやっているようですが、どうして一緒にできないのか疑問。 今回の汚染物質による汚染は、農薬・肥料など意図的に用途、用量を間違えれば危害になりうるもの（抗菌性物質など）を投与しているものでも、意図しない汚染があるように考えます。 リスクコミュニケーションというより、消費者のボトムアップをどうするかが重要ではないか。 パワーポイントの説明がとてもよかった。会員に説明する時にも役に立ちます。 もう少しざっくばらんな雰囲気があったほうが良いのではないか。 意見交換会としての時間決定は、ある程度無制限な機会も必要なのではないか。いつも時間が足りないと感じる。 リスクコミュニケーションの全体構成、農薬、飼料、安全性表示などのことに何をやるかを知らせて欲しい。 関係者のご努力には感謝します。

事務局より 皆様からいただいたご意見については、担当に伝えてありますことを報告致します。 会の運営についていただいたご意見については、今後の参考にさせていただきます。 時間については、皆様の貴重な時間を割いて参加していただいておりますので、時間を最大限有効に使えるよう議事運営に努めたいと考えています。 また今回は事務局が当初想定していたより多くの申し込みをいただき、全員に参加していただいたため会場が狭くなってしまいました。この場を借りてお詫び申し上げます。 なお、全国各地で農林水産省、食品安全委員会、厚生労働省との共催で意見交換会を実施しますので、お近くで開催する際はふるってご参加下さい。また地方農政局や地方農政事務所でも食品の安全に関する情報提供を行っていますので、ご活用下さい。 「農林水産省ホームページのご案内」 リスクコミュニケーションの今後の予定については「消費・安全局 食の安全・安心施策の推進のための工程表」(http://www.maff.go.jp/www/press/cont/20040109press_4b.pdf)をご覧ください。 個々の開催については決定次第、「報道発表資料」(http://www.maff.go.jp/www/press/press.html)に掲載致します。 リスクコミュニケーション情報については、「食の安全・安心のための取組」(http://www.maff.go.jp/syoku_anzen/shokuhin_risk.htm)に掲載していますのでご活用下さい。 (問い合わせ先) 農林水産省 消費・安全局消費者情報官付リスクコミュニケーション推進班 中山、渡邊、石井 電話番号：03-3502-8111(内線) 3334, 3335, 3338 FAX番号：03-5512-2293
--